

---

# ねこの思い出9 「カニ食いねこのいない冬」

西宮尚

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ねこの思い出9「カニ食いねこのいない冬」

### 【Nコード】

N5843D

### 【作者名】

西宮尚

### 【あらすじ】

18歳8ヶ月で逝ってしまったねこの思い出をつづります。そのねこの食生活は超贅沢。一番の好物はカニでした。

(前書き)

18歳8ヶ月で逝ってしまったたねこの思い出をつづります。  
そのねこは、最高にかわいい容姿と最悪な性格をしていました。

うちのねこは、カニが好きだった。  
本当に贅沢に育ててしまったと思う。  
でも、最初からかにかが好きだった訳ではない。

うちの家族は結構カニが好きだ。  
でも、カニをさばくためにハサミをチヨキンチヨキンと鳴らすと、  
ねこはどこかに隠れてしまった。

この音が嫌いなのか、何か悪い思い出があるのか。

ねこは、生後2ヶ月ぐらいで捨てられた。

うちには、ミーちゃんという猫がいて、猫好きだと思われていたの  
だろう。

うちのそばに捨てられていた。

そばにいることは鳴き声で判ったが、ねこは、人の姿を見ると逃げ  
てしまって捕まえられなかった。

このねこ。元は人に飼われていたのだろうに、とても人嫌いなねこ  
だった。

二日二晩泣き続けて、声の枯れてしまったねこに、とりあえず餌に  
なりそうなものを、ねこのいそうな場所に置いた。  
そして、徐々に、慣らしていったのだ。

うちにいる猫は必ず「イヤだニャン」になる。ミーちゃんも自分が  
一番に思われていないといけない猫であった。

だから、いくら猫好き家族であっても、2匹一緒に飼う訳にはいか  
ない。

そこで、兄の家の外猫になった。

ハサミの音を聞いて逃げるのを見て、いったい、このねこの過去には何があったのか、考える。

でも、ハサミを使って出した毛ガニの身を食べたねこは、ハサミの音を聞くと近くに寄るようになった。

それがうれしくて、一生懸命にカニをさばいて身を出した。

ねこが逝ってしまって、冬の鍋に、カニが入ることはなくなった。

ごはんのおかずも、さしみや焼き魚であることが減った。

みんな、ねこの好物だから、これらを食卓に出すことが多かったのだ。

宴会に、カニが出た。

私は、そのカニをさばいて身を出す。

それは、他の人も驚くぐらいに上手だった。

「いえで良くカニを食べていたから」と言うと、「贅沢だね」と言われる。

でも、私は、カニが大好きなねこに、カニの身をさばいてやっていた事を思い出す。

歩けなくなつて起き上がれなくなつて弱つて逝つてしまう前に、ねこが最後に食べたのは、私がさばいてやった毛ガニだった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5843d/>

---

ねこの思い出9「カニ食いねこのいない冬」

2010年10月11日22時45分発行